持った、労災防止が重要であ

一画について、本部の考えをお

一て、議論していただきたい。

持続可能な地域公共交通

昨年、二名の協力会社社

要員削減ありきの施策に なっていないか

岡山地方本部 今井代議員

が起きている」ということで

るかということである。 の削減、見直し」が出来てい

よりあった方が良い」という

地本として「鉄道は無い

これからの本部・本社間で

人である以上、どうして

じていない、感じる前に事象

て言えることは、「危険を感

生している。これらに共通し

減ありきの施策になっていな 続けてきたことは、「要員削 体交渉を行った。交渉で言い

に25,000円の維持費が ついては、100円稼ぐため 芸備線東城~備後落合間に

いか」要員削減に伴う「業務

かかっている。

電や墜落労災、触車につな よって奪われた。さらに、感 員の若い命が交通事故に

> は、4度にわたる支社との団 見直し」について、岡山地本 ●「本社および地方機関の

> > り組みについて、今年4月の のあり方と、組合としての取

線区別収支率が公表され、

がりかねない待避不良も発

央本部の叱咤、ご指導の成果 0%回収をいち早く達成。中 22検 証アンケートの10 として、御礼申し上げる。



●第2回安全考動計画20 | ヒューマンファクターの視点を 安全考動計画2022の

を構築する計画にすること も緩みや抜け・省略といった はないか。 が重要だと考える。次期計 全計画はそれを補う仕組み 行為が発生するが、次期安

ドマップの見直し、そして重

理解してほしいとの思いか

に地域公共交通のあり方を た。また、JR西労組組合員 らう取り組みをすすめてき 考え方を自治体に改めても

ら、7月23日に、JR連合宮

野企画部長をお招きし、「持

一方、運賃の過収受や寝

り方や各系統におけるロー 直しの詳細、特急通勤のあ の交渉では、業務削減や見

連絡会のあり方などについ 要な位置づけとなる、地区

全計画の策定に向けて、 最終年を振り返り、次期安

改善基準告示の見直し」 中国JRバス地方本部 について検証すべき 田部代議員

0,000円の夏季奨励金 0,000円、パート社員1 務管理層上級30,000 転係112,000円に2 社員20,000円を加算 円、管理監督層M級·契約 した昨年冬と同額。嘱託運

●労働協約改定要求につい ては、55歳以降の基本給調

アールバスの経営状況は、コロ

●2021年度の中国ジェイ

も獲得。

らせ、貸切バスの営業を強化

年末年始には利用増が

ける中、可能な限リバスを走 ナウイルスの影響を受け続

る。

整率の改善や、新設された 起こさない」取り組みによる 運休したものの、その後はほ について、最初の緊急事態宣 る。事故の発生件数は他の の1であり、我々の「事故を り輸送の使命を果たしてい ぼすべての便で運行してお 成果である。 バス会社の4分の1から5分 言時に県外への高速路線を 魅力ある業種となるには

●安全安定輸送の取り組み

西日本JRバス地方本部

前畑代議員

待遇改善が急務

後、冬季賞与の交渉もある。 社からの表明があった。今 時期に交渉を行いたいと会 たが、4月実施に間に合う 中央本部の支援をお願いす まで春闘時に一緒に行ってき 引き出すことができた。ま 厳しい中でも多くの成果を た、交渉時期についてもこれ



ルカムカウンターの廃止によ

ンターの移転、利用減のウエ

予約センターとお客様セ

て再度、ご利用は低下した。 ロン株の影響で年度末に向け あったものの、今度はオミク

当層C級50,000円、業 箇月に特別一時金として担 扶養手当の合計額の1・80 ●夏季手当は基本給および 赤字となった。

業利益は1,408百万円の る経費の削減を行ったが、営

> 暇の拡大、結婚休暇の分割 用、バス乗車券割引購入など 取得、運転中のサングラス着 P職試験の実施、忌引き休

> > 出勤などが多発しており、本 要がある。 く、背後要因を洗い出す必 過ごしによる遅延、酒気帯び 人のミスで終わらせるのでな また、改善基準告示の見

日の休息時間が延長された 直しの方向性が示され、1 が、「継続9時間を下回らな

> のか、検証が必要である。 い」と現行から1時間のみの ある休息時間の延長となる 延長となった。本当に効果の

一き取り組みを進めていく。 | らうことができた。引き続 と2名となり、未加入だった 社員もようやく加入しても ●組織について、組織率は99 %となり、他労組の国労があ

よう、お願い申し上げる。 合・交運労協を通じ、国政に 考えている。一方で、JR連 負担の軽減を求めていただく 対して軽油引取税の減額や

性を高めるために、待遇改善

より、資源や原油が高騰し ナ危機に端を発したロシアへ 変容の定着から、ご利用減 人の移動が制限され、社会 の経済制裁や円安の影響に による減収が続き、ウクライ ●2年半のコロナ禍により、 比較すると4・4才上昇して るものの、高齢化に歯止めが いる。 年齢は51・2才と、十年前と かからず、バス運転士の平均 全国のバス運転手の数は、近 年12~13万人で推移してい ●国交省のデータによると、

ではないのか、労組でチェック 安全をおざなりにするもの 化とコスト削減を強いられ、 業の脆弱性が顕在化してい 経営を圧迫し、我々交通産 機能を強化していきたいと一ば、路線の縮小や廃止を余儀 会社は更なる業務の効率 より約2割安く、高齢化につ な対策を講じていかなけれ いても、高速線運転士の平均 年齢は57を超えている。 一途を辿り、早急に多角的 平均年収は、全職種平均 コロナ以降、離職も増加の

る。

が見えないとの声が寄せら 輩方の背中を追いかけ、組合 る。JR採用は、これまで先 定期大会から一線を退かれ 組合としての具体的な動き 明、学習会をしていく事では、 運動の継承を図ってきた。 役員の方々が、ついに来年の 属意識について、国鉄採用 ●組織課題と組合への帰 れる。本部の見解をお聞か 自治体訪問や議員への説 しかし、職場がほぼJR

ただくことを予定している。 て、各支部分会に説明をい JR連合政策提言」につい 続可能な公共交通をつくる によってコミュニケーションも くわずか。さらに、コロナ禍 極的に参加する組合員はご 示さない組合員が多く、積 りを持ちたくない、理解を に感じる。組合運動に関わ 意識が極端に低下したよう なったことで、組合への帰属 西労組組合員という環境に

る。分会機能の維持、組合へ 取っていただきたい。 の帰属意識向上のために ずは、この冬のボーナスであ が必要だと感じている。ま 意味でも、目に見える成果 も、目に見える成果を勝ち 組合の存在意義を示す

とりにくくなっている。

スパイラル」に陥る危機に直ても人がいないといった「負の なくされ、一方で仕事があっ

経営と安全は一体

経営が厳しい時こそ安全意識

を高める

川原業務部

施前後で多くの課題も発生する

と思う、窓口は開け続け本部とし

いては西バス地本の持続可能 たちにとっては耳が痛く受け 規則で長く、賃金が低い。私 会的責任が重く、かつ危険な 根拠もない。会社の発展、ひ も、事実であり否定できる 仕事である。労働時間が不 着している理由としては、 入れがたいイメージであって をしている理由としては、社魅力のない業種として定

組合員がいることを忘れないで

を対応してくれている西労組の 日々、我々に変わってご被害者様 ◆ご被害者様対応本部では、

営が厳しい時こそ安全を意識し

◆経営と安全は一体であり、経

労働時間や健康管理含めて本 が、安全の確保が大前提であり、 ◆サブキャリア制度を新設する ても対応していく考えである。

であると考える。 境の整備を図ることも、急務 出を歓迎し働き方や多様性 しかしながら、女性の社会進 いため十分に進んでいない。 をアピールして採用を活性 なう経営体力が事業者にな 育成について、設備投資を行 化させることが急がれる。 に対応するために設備や環 また、女性運転士の確保・

策定に向けて取り組みたい。

◆アンケートで守りにくいルール

証したうえで、次期考動計画の に感謝する。アンケート結果検 検証アンケートの100%回収

◆鉄道安全考動計画2022 と労使協議を進めている。 なければならないとの認識のも

えていただくよう要請する。 の窮状を国政に引き続き訴 大、バスを含めた交通産業 や両立支援等、助成金の拡 本部におかれては、JR連

> 意見を踏まえ、大会終了後に申 から発言を頂いた、本大会での

入れを行い議論を深めた。施策実

決意のもと、試行を取り組んで

◆組織改正については、全地本

改訂に向けて試行がスタートし

購入時の手続きの簡素化や、オ

考える。会社とも議論し、チケッ もいると考えれば60分以上と

トレスの推進に加え、通学定期

ている。我々がルールを作るとの

をしてきた結果、新しい触防の 防であり、これまでも労使協議 があるとの回答はほとんどが触

執行部答弁

央本部も速やかに会社に申し

人れ交渉を行ってきた。持続可

引き続き国会議員やJR西労 能な地域交通の実現に向けて、

地域活性化に向けた議論を進 める

川端総務·財政·政策



様々なご意見を頂きながら今 ていきたい。 後も引き続きしつかりと議論し

動していくべきか検討、議論して なっており、今後、どのように活 ◆財政については、毎年減収と いる。また、専従配置についても 策については引き続き取り組み ら、対策を講じていく。安全対 増となり、大変な状況である。 リンが上がれば を継続していただきたい。 ◆バス関係については、1円ガソ JR連合の後押しを頂きなが かなりのコスト

ル線の状況を会社が公表し、中 ◆政策については、4月にローカ

議論している。小委員会でも

討している。今大会で頂いた声 きる体制にしていく考えである。 員に寄り添い、世話役活動がで がるような仕組みにできないか 使うことで地域の活性化につな に限らず、他の予算から鉄道に 国に対しては、現在の鉄道予算 は、現在、組織検討委員会で検 と連携し、国への要請や自治体 組議員団をはじめ自治体議員 は反映し整備していきたい。組合 ◆間接部門の組織改正に伴う 問題提起していく。 訪問を通じ議論していく。特に、 JR西労組の組織整備について

績に応じた転配等含めて行う ペレーターの増配置、駅の利用実 計画となっている。

なっている。会社は画一的な運用 統では充足してきており、今後 り、地方では逆ピラミッド型と 務員が少ないピラミッド型であ 運用について会社と議論を深め る。またNSについても一部の系 は限界に来ていると言い切ってい て、アーバンでは駅社員が多く乗 ▼社員運用とNSの関係につい

2

することによって変化対応力を おらず、あくまで様々な経験を ているが、購入を諦めたお客様 は、4月は最大60分待ちと聞い ◆遠隔MVによる混乱について 労使で確認している。そのため収 入が増えるような制度になって 来業務に影響を与えないことは があったが、会社に対しては組合 いることを早目に出すよう言っ いても実際には実施していない施 員に不安を与えないよう考えて ていることは評価してほしい。 策もある。早目に施策を提示し ており、施策メニューに提示して ▼施策のスピード感といった発言 ていきたい。

向上させることが目的である。

得た知見を発揮できる仕掛け 組合員が職場に復帰した時に、 やサブキャリア制度に応募した めており、そのために社外出向 協議することを要請する。 が必要である。各地本も支社と ▼会社として変化対応力を求

地に入り支援することをお約 ては、本部としても積極的に現 北陸新幹線の敦賀延伸につい